

現在、日本は超高齢社会を迎え、死因別死亡率で肺炎が脳血管疾患を超え第3位となり、そのうち、高齢者の誤嚥性肺炎が占める割合が多くなっています。誤嚥性肺炎と摂食嚥下機能の低下は関係が深く、それは、低栄養、筋力低下、サルコペニア、フレイルという好ましくない状況を引き起こします。私は耳鼻咽喉頭頸部外科病棟に勤務しています。当科の患者さんは、老化による嚥下機能の変化に疾患そのものや治療による嚥下障害が加わるため、問題はさらに複雑になります。このような患者さんが、口から安全に食べるための業務改善や患者指導を、病棟スタッフや医師、言語聴覚士と共に取り組んできました。また、誤嚥性肺炎予防、口腔ケア、姿勢調整、嚥下訓練法などの勉強会を行っています。

そして、病院全体にも食支援を広めるための活動を開始しているところです。大学病院は、超急性期病院であり、専門性が高く、各科の特徴から摂食嚥下障害も異なりますが、安全に口から食べるには、食べない時期からの関わり（食べられる口作り）が必要な事は共通しています。包括的なアセスメントがなされ、廃用を予防するための栄養管理、口腔ケア、リハビリテーションを十分行い地域につなげることが役割です。看護は生活支援という視点でケアをします。高いQOLを看護ケアで実現する、QOLと関係が深い食べる機能を低下させないケアを広め、ケアの底上げをすることが認定看護師の役割です。さらに、サルコペニアやフレイルの方の摂食嚥下機能低下の予

防、回復期、慢性期の方々、終末期を迎える方への支援も含めたケアを地域の方と一緒にできるように尽力する役割を担うと考えています。摂食嚥下障害は十人十色です。その方達に、オーダーメイドのケアが提供できるようなチーム医療を地域全体に広めることが夢です。



wit h

東北大学病院
地域医療連携センター通信
[With/ウィズ]

vol.43
2017年11月10日発行

お知らせ

● 駐車場のご案内 ～第1駐車場をご利用ください～

2017年4月より当院入退院センターの開設に伴い、入院当日の諸手続きは病棟で行えるよう運用を変更しました。当日お車でお越しになる場合は、病棟に近い第1駐車場（北六番丁通り沿い）をご利用ください。



※土日休日入院の場合は、正面の第2駐車場をご利用ください

● 第13回 地域医療連携協議会を開催します

日時：2018年2月6日（火）午後7時～
場所：勝山館（仙台市青葉区上杉2丁目1番50号）

● 「医療機関専用 予約申し込みご案内」と「外来担当医表（H29.11.1現在版）」が完成しました。

※ 完全予約制の診療科へ患者さんをご紹介くださる医療機関は、必ず事前に地域医療連携センターへご予約のお申し込みをお願いします。

Information

編集後記

今年もあと2か月足らずとなってしまいました。いよいよ寒い冬の入口に差し掛かっています。個人的には寒さは苦手、夏の暑さに期待しておりましたが、今年の夏は日照時間が少なく、雨模様の空ばかりが続いたため、少々残念な結果となってしまいました。これからはインフルエンザの季節を迎えます。インフルエンザに罹患すると、概ね一週間は不慣れた生活を余儀なくされてしまいます。うがい、手洗い、栄養をしっかりとって、この寒い冬を乗り切りましょう。（地域医療支援係長 須田 征宏）

編集／発行

東北大学病院 地域医療連携センター
TEL：022-717-8885 FAX：022-717-8886
Eメール：rmsupport-group@umin.net
ご意見・ご要望は地域医療支援係まで
お問合せください。



トピックス

ホームページに連携医療機関・かかりつけ医一覧を掲載しました

Topics

当院のホームページに「連携医療機関」の情報を公開しました。

より一層の患者受入れと逆紹介を推進することにご賛同いただいた宮城県内457医療機関にアンケートにご回答いただき、データベースを作成しました。さまざまな条件やキーワードから医療機関を検索でき、診療科目や可能な検査、往診の可否などの詳細な医療機関情報の閲覧が可能です。

連携医療機関・かかりつけ医データベースについて

当院は地域医療機関との連携を推進することにより、医療機関の機能分化を推進し、あわせて医療の質の向上に寄与することを目的として「地域医療連携協議会」を設立しています。2017年7月現在、協議会の趣旨にご賛同いただいた1,154の医療機関と連携しておりますが、そのうち宮城県内の「連携医療機関・かかりつけ医一覧」として掲載することにご賛同いただいた医療機関の情報を掲載しています。

新たに掲載を希望される場合

当院の連携施設として「地域医療連携協議会」にご賛同いただいた医療機関に限らせていただきますので、新たに掲載を希望される際は、下記までご連絡ください。また、データベースに掲載されている内容に変更が生じた際には、下記までお知らせください。

地域医療連携センター
お問い合わせ先 022-717-7131
月～金（祝祭日除く）8:30～17:15



トップページにバナーを置きました！ぜひご利用ください。

循環器内科

循環器疾患は、がんに次いで我が国第2位の死因であり、その予防・治療の必要性はますます高まっています。当科では虚血グループ（虚血性心疾患）、不整脈グループ（不整脈疾患、心不全デバイス治療）、循環グループ（肺高血圧症、重症心不全、弁膜症、心筋症）の臨床3グループが、ミーティングを通して意見交換を行い、患者さん一人一人に最適な治療法を選択して治療を実施しています。また、循環器救急疾患に年間を通して24時間体制で受け入れるため、循環器直通回線であるハート・ホットラインを設置して対応しており、循環器疾患の最後の砦として、多くの一般医家、市中病院の先生方より多くの症例を紹介いただいております。

に、先進医療として低出力体外衝撃波を用いた非侵襲性の血管新生療法を施行しているほか、超音波血管新生療法の医師主導治験も全国10施設で進んでおります。狭心症の治療に難渋されている方（薬物抵抗性で、冠動脈インターベンションやバイパス術の施行が困難な方）はぜひご相談ください。また、ハイリスクの重症大動脈弁狭窄症症例に対しては心臓血管外科と協力して経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）を行っております。



虚血グループ（狭心症・心筋梗塞、重症大動脈弁狭窄症など）

2016年に施行した虚血性心疾患を対象にした心臓カテーテル総数は654例、冠動脈インターベンション施行数209例でした。冠動脈造影と血管内イメージング（IVUS、OFDI）による形態学的検討に加え、機能的検査（FFR）を積極的に施行することで、より質の高い冠動脈インターベンション治療をしていきたいと考えております。また、日本人に多い冠攣縮性狭心症の診断・治療にも力を入れており、微小血管狭心症を含めた冠動脈血管機能異常を調べるために冠攣縮誘発試験を積極的に施行しております。さら

不整脈グループ（不整脈、重症心不全デバイス治療など）

高周波カテーテルアブレーション治療を中心に、植え込み型除細動器（ICD）の植え込み、重症心不全症例に対する心臓再同期療法、ブルガダ症候群を含めた特発性心室細動の診断・治療などを施行しております。2016年度カテーテルアブレーション件数268件中、心房細動症例の占める割合が大きく51%を占めており、心房細動への治療の必要性はますます増えています。皮下植え込み型除細動器（S-ICD）は、心腔内へのICDリード留置が不要であり、リード留置・



Department

感染などのトラブルを回避できます。ペースメーカーが不要の患者・一次予防の患者が良い適応で有り、当院でも現時点で19例に植え込んでおります。



循環グループ（肺高血圧症、重症心不全、弁膜症、心筋症など）

対象疾患は、心筋症・弁膜症に加え肺高血圧症・重症心不全・心膜疾患など多岐にわたっています。以前より肺高血圧症の治療に力を入れてまいりましたが、近年ますます進歩してきており、我々も予後改善を目指し多剤併用療法やPGI2持続静注など療法積極的な治療を行っています。2009年より開始しました慢性血栓性肺高血圧症への肺動脈インターベンションですが、総セッション数も400件を超え良好な成績を示しています。心不全の分野では、心臓カテーテル検査だけでなく、心筋生検、運動負荷や画像診断で総合的に評価しています。2016年度だけでも5例のFabry病を診断し、酵素補充療法を開始しています。慢性心不全には看護師、薬剤師、理学療法士、医師を交えたハートチームとして治療方針を検討しています。また、当院は東北では唯一の心臓移植実施施設であり、重症心不全の移植の申請や植え込み型補助人工心臓の適応検討などを心臓外科と共に進めています。

近年、がん治療には多くの効果を認める薬剤が導入されています。それにとれない循環器合併症も増えており、がん治療の妨げにもなっています。そこで2016年4月よりCardio-oncologyの専門外来を設け、がん治療の手助けとなるよう診療を開始しました。

People

2017年5月1日付けで東北大学病院歯科診療部門の歯周病科長を拝命しました山田 聡です。私は、1991年に大阪大学歯学部を卒業、大学院、米国立衛生研究所（NIH）留学を経て、大阪大学歯学部附属病院にて歯周病の診断・治療に関わる基礎研究・臨床研究を行ってまいりました。今後は、これまでの経験をもとに歴史ある東北大学病院の一員として、その発展に微力ながら尽くして参る所存です。

当科は、名前の如く、歯周病の診断および治療を専門とした診療科です。歯周病は、単に口の中の感染症としてとどまらず、糖尿病や循環器疾患といったメタボリックシンドロームとの関連性が明らかとされており、その罹患率の高さからも、「口の中の生活習慣病」

として治療すべき重要な疾患の一つです。したがって、医科・歯科が融合した東北大学病院の特性を活かして、内科部門との連携、さらには、東北・仙台の地域医療機関との連携を密に取りながら、全身疾患を有する歯周病患者の診断・治療を積極的に進めて行くことで、歯周病と全身疾患との関連性の解明にも努めて参りたいと思います。

さらに、昨年末、サイトカインFGF-2を用いた新規歯周組織再生療法が承認されました。FGF-2は、歯周病により破壊された歯周組織の再生を誘導する世界初の歯周組織再生治療薬であり、私もその基礎研究・臨床治験に長らく関わってきました。当科では、この新薬を用いた歯周組織再生歯周外科手術にも重点的に取り組んで行

きたいと考えております。

今後は、大学病院の責務として、臨床・研究・教育について、なお一層、充実を図ると共に、東北地方における地域医療の発展のため頑張っていきたいと思っております。臨床現場、臨床研究、臨床教育などさまざまな機会に際しまして、地域医療機関皆様のご支援を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。



イベント

第17回市民公開講座を開催しました

10月1日（日）仙台国際センターにおいて「もしかして、リウマチ？」をテーマに、第17回市民公開講座を開催しました。

第一部基調講演では、整形外科の森 優助教が「リウマチ・ロコモを予防しよう」と題し、関節リウマチに合併して生じる関節の機能障害や骨粗鬆症について説明し、筋力の低下・運動器の障害を予防するための取り組みについて紹介しました。続いて、臨床研究推進センターの石井 智徳特任教授が「この関節の痛みってリウマチ？」と題し、関節リウマチとこれに似た病気との違いについて紹介したほか、ご自身が関節リウマチかどうか心配されている方へのアドバイスをお話しました。

第二部では、リハビリテーション部の高橋 久美子作業療法士が「リウマチー小さな工夫で暮らしやすく」と題

し、動作を工夫することで関節にかかる負担を減らし、痛みの緩和や関節の変形を予防するための方法をお話したほか、生活を楽にする自助具等を紹介しました。その後、リウマチ患者さんへの応援ソングを歌う歌手の我那覇美奈さんによるミニライブを行い、疾患啓発応援ソング「With A Wish」「希望のつぼみ」の2曲を披露いただきました。会場に手拍子が広がり一体感に包まれ、リウマチ患者さんもうでない方も我那覇さんの力強い歌声に励まされた素敵なひとときとなりました。その後、会場の皆さんと「リウマチ体操」で一緒に体を動かしました。

第三部パネルディスカッションでは、事前に寄せられたリウマチに関する質問に対して、パネリストである当院の医師・作業療法士それぞれの立場からの説明がありました。

Event

今回の第18回市民公開講座は、2018年6月23日（土）13:00より、仙台国際センターにおいて「もっと知りたい！血圧と腎臓の神秘」を開催いたします。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



リウマチ体操の様子



パネルディスカッション